



バンパンガ国立農業大学(PSAU)の敷地に建設した製茶工場。桑畑も整備されており、ここで育てた桑の葉はもちろんのこと、近隣農家が育てた桑の葉もこの工場に集まり、製茶される。



末精製の荒茶の段階で異物混入のチェックや農薬検査も実施し、安全という承認を得た後、現地でもなじみのあるティーバッグ製品への加工を行った。また、現地で最も需要の多いパウダータイプへの加工・販売も行った。



現地での桑の葉栽培は、普段バナナやマンゴー等を栽培している農家が行った。

フィリピンに健康を届ける 桑の葉茶事業の挑戦

フィリピン

「バンパンガ州における桑の葉茶事業案件化調査」2016年5月～2017年6月

「バンパンガ州における桑の葉茶事業普及・実証事業」2019年2月～2023年8月

山梨県 株式会社桑郷

桑の葉茶の製造・卸・販売を行っている株式会社桑郷。桑の栽培は、山梨県の耕作放棄地再生事業を利用した土地で行っており、これまで4万本の桑苗を植栽してきました。桑の葉茶には、糖尿病の予防効果も知られています。糖尿病患者が年々増加し、社会問題となっているフィリピンで、桑の葉茶を用いた健康促進と、山岳農村地の収入増加を目指す取組について、同社の韓 成旻代表取締役役にお話をうかがいました。

糖尿病に苦しむフィリピン人を 桑の葉茶でサポート

フィリピンで桑の葉茶の普及に関する調査を行った話をする、「フィリピンの方はお茶を飲むの？」とよく聞かれます。フィリピンには、ハーブティーなどの葉草を使ったお茶はあるものの、砂糖がたくさん入った炭酸飲料や甘いコーヒーが人気で、スーパーで売られている緑茶にも砂糖が入っています。

甘いもの好きな食文化の影響もあり、フィリピンでは糖尿病が社会問題になっています^(注1)。大人はもちろん、糖尿病に苦しんでいる子どもたちもあり、2024年5月21日、WHOが発表した2024年版の世界保健統計によると、フィリピンの平均寿命は66.4歳で健康寿命は58.8歳であり、日本の平均寿命84.5歳、健康寿命73.4歳と比べると大きな差があります。

「桑の葉茶でフィリピンの方々の健康をサポートすることができないか？」と考えた当社は、現地を訪問し、桑の葉茶普及の道を模索していたところ、JICA民間連携事業の話を聞き、チャレンジすることを決意しました。

温暖な気候を活かし桑の葉を年4回収穫 現地農家の安定した収入源の確保にも貢献

マニラの北方に位置するバンパンガ州は、年間の平均気温が26～27℃と温暖で、桑の栽培に適しています。そのため、私たちが普段栽培している山梨県では、桑の葉の収穫は年2回だけですが、バンパンガ州では年4回も収穫が可能です。1年の間に複数回収穫できることは、小規模農家にとっては安定した収入源につながるため、本事業の実施に際しては多くの農家が積極的に協力してくれました。途中、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、現地での販売事業はできませんでしたが、デモンストレーションとして日本産の桑の葉茶をフィリピンの三越BGCで販売したところ、完売しました。健康意識の高い現地の方に興味を持っていただけたと手ごたえを感じています。

現在、桑の葉茶の現地製造・販売、日本への輸出を目指し、バンパンガ国立農業大学(PSAU)^(注2)に茶葉製造機械を設置し、桑の葉茶製造を行っています。現地で販売することにより価格を抑えられれば、桑の葉茶の健康効果をフィリピンの方々が体験しやすくなります。さらに、日本への桑の葉茶輸出が可能になれば、現地農家の所得増加にもつながります。当社は、バンパンガ州産の桑の葉茶の品質には自信を持っていますので、現地での製造・販売が軌道に乗るよう、全力で取り組んでいます。

桑の葉茶事業を成功に導く JICA事業の注目度の高さ

本事業は2016年からスタートしましたが、当社は2014年からバンパンガ州での桑の栽培交渉を開始していました。JICA事業となったことで、行政関係の手続がより迅速化し、桑の栽培をスムーズに進めることができました。

また、商品を販売する会社として特にありがたかったのは、現地におけるJICA事業の注目度の高さです。「桑の葉茶プロジェクトをJICAと共同で行っています」というプレスリリースを発表したところ、現地のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌など、多数のメディアが取材に訪れ、桑の葉茶をPRする機会を得ることができました。このような注目を集める宣伝活動は、一企業だけでは実現できません。JICA事業がフィリピンでどれほど期待されているのかを実感しました。

当社の目標は「幸せに生きる人を増やすこと」です。本事業は2023年8月に完了しましたが、現地での当社の桑の葉茶事業はスタートしたばかりです。桑の葉茶を通して、フィリピンの人々の幸せと健康を守り、その幸福が日本にも届くよう、事業を継続していきます。

桑郷
代表取締役 韓 成旻氏

フィリピン共和国
(Republic of the Philippines)
首都：マニラ
人口：1億903万5,343人
(2020年 フィリピン国勢調査)
面積：298,170km²キロ(日本の約8割)
気候：熱帯気候(年間平均気温：約27℃)

PHILIPPINES



Viet Nam

Manila

Malaysia

Indonesia

Episode

日本と同じ世界有数の火山国であるフィリピン。バンパンガ州にもピナトゥボ山という活火山があり、1991年に起きた噴火は、20世紀最大級の大噴火と言われています。JICAは、ピナトゥボ山の火山泥流対策にも協力し、世界で発生する火山対策に、多くの教訓を残す成果を挙げました。



試験農場に植えられた桑の木は3メートル以上の高さまで成長した。

(注1) フィリピンでは糖尿病が社会問題

フィリピンでは、ジャンクフード等を食べる人が増えたことによる食生活の乱れや運動不足等の影響で、肥満や糖尿病などの生活習慣病が深刻な問題となっています。国民の健康的な食生活を推進するため、フィリピン政府は2018年から甘味飲料への課税を導入し、さらに塩分や糖分が多いジャンクフードを対象とした新たな課税の導入も検討しています。

(注2) バンパンガ国立農業大学(PSAU)

フィリピンのバンパンガ州にある農業教育機関で、農業分野の教育と研究を中心に活動しています。豊富な研究農園を備え、農業技術や生産性の向上に注力しており、地域社会や国際社会に貢献しています。

会 社 名：株式会社桑郷
本 社：山梨県西八代郡市川三郷町
設 立：2008(平成20)年
代 表 者：代表取締役 韓 成旻
社 員 数：35名(2025年1月現在)
事 業 内 容：桑の葉茶の製造・卸・販売等
<http://www.kuwanosato.com/>



ODA 事業の情報

本記事の事業は、日本政府(外務省)と国際協力機構(JICA)が連携して進める「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」として採択されたものです。詳しくは JICA「民間連携事業」ページでご確認ください。
https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html

